

看護学生の救命に関する意識変化

新潟医療福祉大学看護学科・近藤浩子

【背景】

近年の AED（自動体外式除細動）の配備により、バイスタンダー（救急現場に居合わせた人）による人命救助が期待されている。この様な社会変化の中で、医療従事者への人命救助に対する社会的役割が高くなってきている。その中で、将来医療従事者を目指す看護学生は、一般学生に比べ救命に対する意識が高いといわれている。先行研究によると、看護学生に対して一次救命処置（BLS：basic life support）演習を取り入れることは、技術の理解の向上や救命処置の積極性が高くなるとの報告がある。そこで、A 大学看護学科において、看護学生の救命処置への興味関心や困難感の意識変化を明らかにするために、成人看護学領域のクリティカルケア看護技術演習（BLS を含む）の前後に、質問紙調査を実施したので報告する。

【方法】

A 大学看護学科 3 年次 86 名に対し、2014 年度前期成人急性期看護学演習期間に、演習開始前に演習前後をまとめた無記名自記式質問表を配布し、演習後に回収をした。調査は、複数の質問項目があり、(1) 将来救命センターへの就労希望 (2) 救命処置に対する「興味関心」(3) 技術に対する「困難感」とし、(2) (3) は、「1. 思わない・2. あまり思わない・3. そう思う・4. 概ねそう思う 5. 大変そう思う」の 5 段階評定とした。得られた結果から、意識の変化について演習効果を分析した。倫理的配慮として、学生には、研究の趣旨を文書と口頭で説明し、同意書の提出を持って調査を実施した。研究協力は自由意思であり成績評価とは関係がない旨を説明し承諾を得た。個人情報保護の観点から、無記名自記式質問表とした。

【結果】

回収は 56 名、有効回答は、54 名（男性 3 名、女性 51 名）、有効回答率 64% であった。平均年齢は、20.2 歳、将来救命センターへの就労希望は、演習前「はい」の回答 20%、演習後 22%、演習前「いいえ」の回答 80%、演習後 78% であった（表 1）。演習前後の興味関心を比較した結果は、「一次救命処置」「二次救命処置」の 2 項目において $p < 0.01$ の統計的有意差が見られた（表 2）。演習前後のクリティカルケア看護技術に対する困難感の比較においては、すべての項目において統計的有意差は見られなかった（表 3）。

表 1. 演習前後の将来救命センターへの就労希望の比較

	演習前	演習後
はい	20%	22%
いいえ	80%	78%

表 2. 演習前後の興味関心の比較

	演習前 平均 (SD)	演習後 平均 (SD)	p 値
一次救命処置	3.9 (0.7)	4.1 (0.9)	0.0025 **
二次救命処置	3.8 (0.8)	4.1 (0.8)	0.0009 **
高度医療	3.9 (0.8)	4.0 (0.9)	

** $p < 0.01$

表 3. 演習前後のクリティカルケア看護技術に対する困難感の比較

	演習前 平均 (SD)	演習後 平均 (SD)
気管挿管の準備	3.1 (1.0)	3.2 (1.0)
気管挿管チューブの気道確保の説明	3.4 (1.0)	3.4 (0.9)
気管挿管チューブの固定法 (バイトブロック使用)の説明	3.5 (0.9)	3.2 (1.1)
一次救命処置のアルゴリズムの説明	3.4 (0.9)	3.4 (0.9)
人工呼吸（口対バッグバルブマスク）	3.2 (1.0)	3.0 (1.2)
AED の使用方法の説明	2.9 (1.0)	2.9 (1.2)
AED を 1 人で使用	3.0 (1.2)	2.8 (1.3)

【考察】

調査の結果、演習は、一次救命処置及び二次救命処置に対する前向きな興味関心へと意識変化を促す効果があったと考えられた。このことは、クリティカルケア看護に関する技術修得の体得と自己効力感が影響していると推測する。クリティカルケア看護の特徴の一つに、看護行為が、生命に直結する問題にかかわりをもつことが挙がる。クリティカルケア看護技術に対する困難感とは、技術修得の他に、看護の特徴からその看護行為への責任を含めて捉えていることも考えられる。そのため、学生のクリティカルケア看護に対する認識を把握していくことはこれからの効果的な指導の一つになりうると考える。また、救命センターへの就労希望は、今後、卒業年次に修得する技術・知識の影響を受け、意識変化していくと考える。看護学生のクリティカルケア看護に対する認識を包含した指導の検討が示唆された。

【結論】

1. 演習は、一次救命処置及び二次救命処置に対する前向きな興味関心へと意識変化を促す効果があった。
2. 演習は、クリティカルケア看護技術に対する困難感と救命センターへの就労希望に対する意識の変化には繋が